

第20章 浄禅寺跡遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12～14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2015年11月現在40地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壌墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

II 浄禅寺遺跡第35地点

(1) 調査の概要

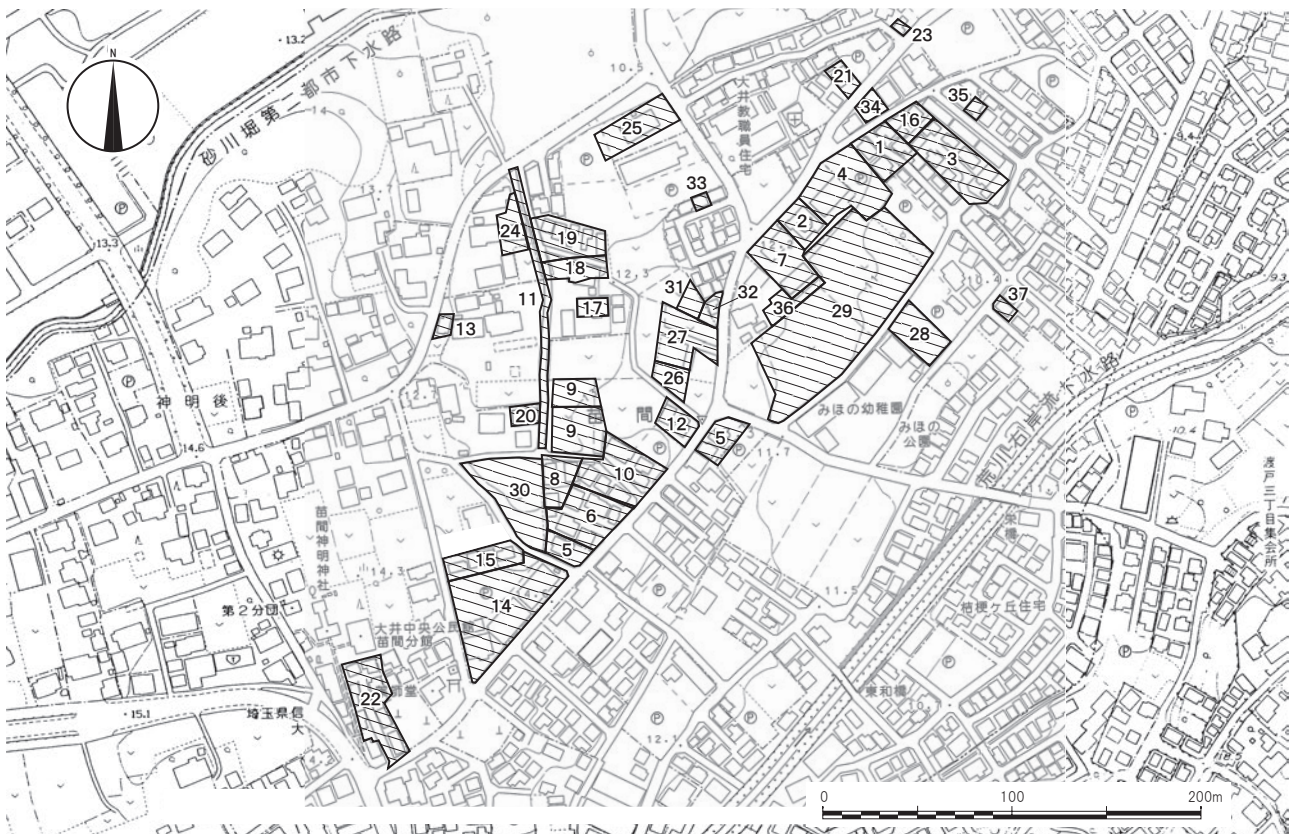
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年4月2日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡北東部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年4月4日、幅約1.5mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、ピット1基を確認した。

他に遺構は確認できなかったため慎重工事の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約90cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

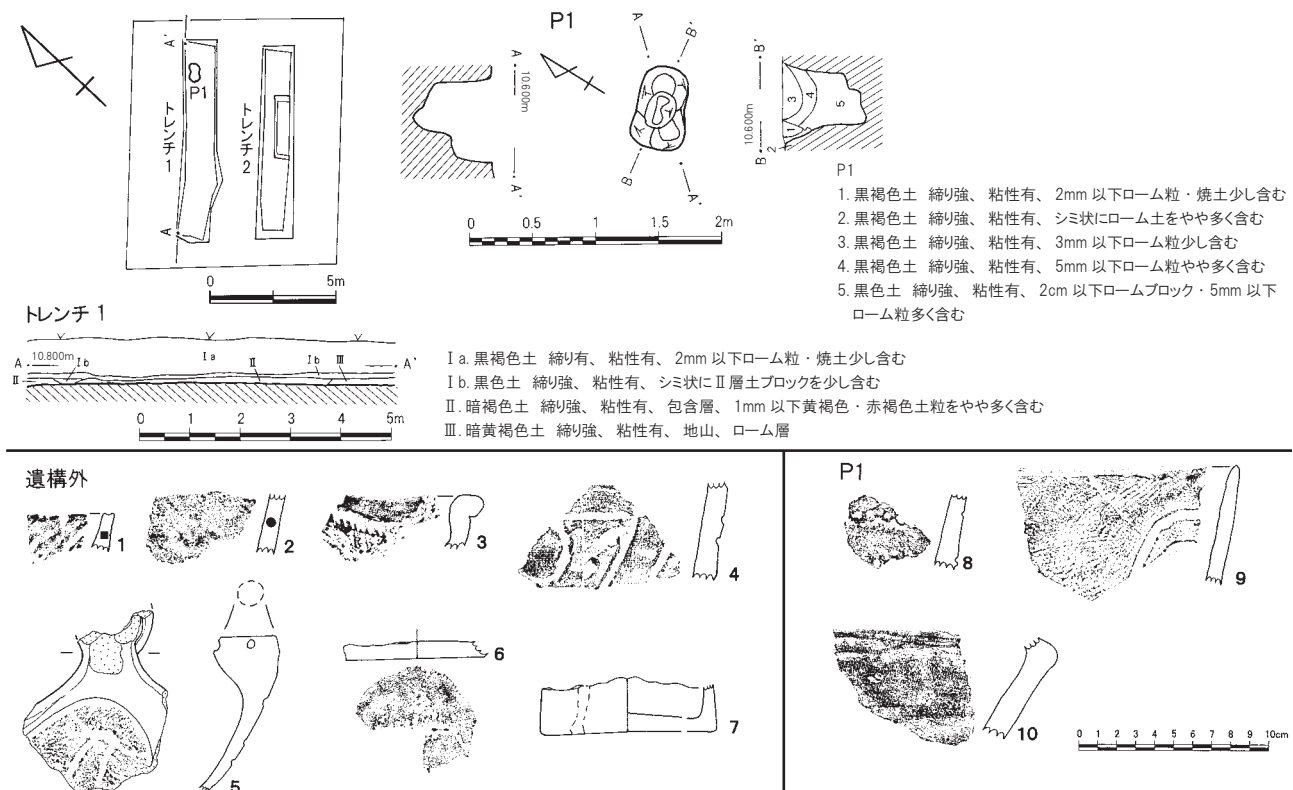
【ピット】ピットは平面楕円形、確認面66×42cm、底径23×9cm、深さ68cmを測る。



第86図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第68表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間東久保579	1979.4.3~4.21	605	共同住宅	苗間東久保1地点として報告済み 炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期	東部遺跡群Ⅰ
2	苗間東久保573	1982.4.1~4.3	396	共同住宅	苗間東久保7地点として報告済み 遺構なし、磨耗縄文土器	東部遺跡群Ⅲ
3	苗間東久保581	1984.7.20~7.21	320	共同住宅	苗間東久保12地点を浄禅寺3地点とする 遺構なし、縄文中期末	未報告
4	苗間神明後346-1	1989.11.15~11.25	150	開発予定地	炉穴10、土坑7、ピット14、縄文早期後半・前・中期	東部遺跡群Ⅴ
5	苗間374-9	1991.8.28~9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群Ⅰ
6	苗間358-1	1991.9.21~12.26	826	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群Ⅰ
7	苗間東久保573-4	1992.10.20~11.20	831	共同住宅	炉穴8、井戸3、堀3、縄文草〜中期	調査会報告5集
8	苗間357-1	(1994.9.20~9.27)	615	宅地分譲	落とし穴、根切溝	町内遺跡群Ⅳ
9	苗間353	(1994.10.18)、2007.5.22~24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群Ⅳ、市内4
10	苗間356-1	1994.10.31~11.2	999	宅地分譲	近世土墳墓、一石経埋納土坑、六道銭、江戸中後期	調査会報告12集
11	苗間352-1 他	(1995.1.9~2.3)	572	道路	湧水口	町内遺跡群Ⅳ
12	苗間35-95	1995.9.25~10.21	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中3、ピット16、溝5、縄文中期土器、磁器	町内遺跡群Ⅴ
13	苗間314-2	(1996.1.8~1.29)	101	個人住宅	土坑13、ピット11、井戸1、溝2、縄文早〜後期、陶磁器	町内遺跡群Ⅴ
14	苗間360-1, 362-2	(1996.6.3~6.12) 1996.6.18~7.11	2,178	個人住宅	竈群3、落とし穴1、溝4、ピット251、旧石器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡群Ⅵ
15	苗間362-4・5	(1996.6.3~6.12) 1996.7.12~8.2	494	分譲住宅	炉穴7	町内遺跡群Ⅵ
16	苗間579-1	1997.11.10~12.19	291	個人住宅	縄文住居1、炉穴14、ピット61、土坑16、溝4、縄文早期後半・前期、中期	町内遺跡群Ⅶ
17	苗間345-2・10	(1998.9.29~10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半・中期後半	町内遺跡群Ⅶ
18	苗間345-3・4	(1999.5.26~6.24) 1999.6.26~8.3	599	個人住宅	炉穴8、集石土坑3、土坑13、ピット27、溝 縄文後期土器、土師器	町内遺跡群Ⅸ
19	苗間神明後345-4	1999.8~9	703	分譲住宅	炉穴1、集石2、焼土痕4、土坑22、井戸2、溝8、掘立5、縄文早〜晩期土器、石器、中近世陶磁器、板碑	調査会報告15集
20	苗間神明後351-1	(2001.10.26~10.29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群Ⅹ
21	苗間東久保591-3, 592-7	(2001.11.19~11.20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群Ⅹ
22	苗間373-5・8, 377-5・3・4	(2002.4.23~5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ピット4、溝、遺物なし	町内遺跡群Ⅹ
23	苗間592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ピット2、溝、遺物なし	町内遺跡群Ⅹ
24	苗間神明後346-1・2の一部	(2004.8.30~8.31)	391	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群Ⅹ
25	苗間339-1・2	(2004.9.22~10.12)	721	共同住宅	ピット2	町内遺跡群Ⅹ
	苗間神明後338-8, 339-2	(2012.6.27)	844.8	個人住宅	遺構なし、遺物なし	市内遺跡群14
26	苗間神明後354-2の一部	(2005.3.3~3.8) 2006.4.17~28, 6.7~15	216	分譲住宅	炉穴10、土坑8、ピット21、溝1、縄文中期片	市内遺跡群3
27	苗間神明後354-2	(2005.12.1~2006.1.22) 2006.1.23~2.23	696	新設道路築造分譲住宅	住居跡1、炉穴15、埋甕2、土坑117、ピット127、溝1	市内遺跡群2
28	苗間宇東久保719-7, 720-1	(2007.1.23)	2,478	園舎改築工事	溝2	市内遺跡群3
29	苗間570-1・2, 571-1・2, 575	(2007.8.7~9.21) 2007.9.25~11.6	4,920	分譲住宅	掘立柱建物跡3、井戸15、土坑15、堀跡1、溝17、陶磁器・板碑他	市内遺跡群4
30	苗間359-1	(2007.9.14~10.9) 2007.10.9~11.2	1,298	分譲住宅	茶毘跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器・板碑他	市内遺跡群4
31	苗間宇神明後342-14一部	(2007.2.19) 2007.2.19~3.5	171	個人住宅	住居跡1、炉穴1、土坑1、ピット26、縄文土器・石器	市内遺跡群4
32	苗間宇神明後340-17, 342-10・15	(2007.2.25~3.4)	188	個人住宅	堀跡1、ピット1、縄文土器	市内遺跡群4
33	苗間宇神明後340-21	(2010.8.6)	76	個人住宅	土坑1	市内遺跡群10
34	苗間宇東久保586-7, 587-2の一部	(2012.8.24)	160	個人住宅	遺構なし、遺物なし	市内遺跡群14
35	苗間宇東久保582-8	(2012.4.4)	80	個人住宅	ピット1、縄文土器片	市内遺跡群15
36	苗間宇東久保573-5	(2012.8.6~8.9) 2012.9.5~9.12	401	宅地造成	土坑2、ピット14、溝5	市内遺跡群15
37	苗間宇東久保727-17	(2012.11.21)	100.52	個人住宅	遺構なし、遺物なし	市内遺跡群15
38	苗間東久保578-11	(2013.5.13~5.14)	53.42	個人住宅	遺構なし、表探土器	未報告
39	ふじみ野2-27-1・9	(2013.6.25~7.3)	1,709	宅地造成分譲住宅	中世以降の溝、遺物なし	未報告



第87図 浄禅寺跡遺跡第35地点遺構配置図(1/300)、土層(1/150)、ピット(1/60)、出土遺物(1/4)

【出土遺物】(第 87 図 1～10)

1 は口唇部が窪む、地文に無節 L r 縄文で胎土に繊維を含む。2 は無文で胎土に金雲母を含む。3 は隆帯脇に三角押文と区画内にも三角押文を施す。4 は沈線の区画内に沈線文と円形刺突文を施す。5 は波状口縁の波頂部把手に円形刺突を施し、口唇部が内折する。沈線文と沈線間の縄文は摩滅のため不明。6 は底部、7 は無文の底部で底に網代痕を有する。8 は円形刺突のある隆帯を 2 条巡らす。9 は波状口縁の波頂部に円形刺突文、地文は L R 縄文と沈線文を施す。10 は浅鉢で無文。

1～7 は遺構外出土。1 は黒浜式、3・4 は勝坂Ⅱ～Ⅲ式、5 は称名寺Ⅱ式、7～9 は堀之内式、他は前期から後期である。

Ⅲ 浄禅寺跡遺跡第 36 地点

(1) 調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より 2012 年 7 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 8 月 6 日から 9 日まで、幅約 1.5 m のトレンチ 5 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、一部で遺構覆土を検出したため、発掘調査の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは北側の斜面上で約 50cm、南側の斜面下で約 120 cm である。

その後、それぞれの宅地予定地について個人住宅建設に伴う「埋蔵文化財事前協議書」が各原因者より 2012 年 8 月 20 日及び 9 月 11 日付けでふじみ野市教育委員会に提出されたため、本調査を行った。本調査は 9 月 5 日から 12 日に行い、土坑 2 基、ピット 14 基中世以降の堀・溝 5 条を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【土坑・ピット】土坑 2 基、ピット 14 基を確認した。詳細は第 69 表参照。

【堀・溝】5 条検出した。堀 1・2・3 は本調査区北東の第 7 地点、南側の 29 地点で検出した堀 1・2・3 と連続する同一遺構である。なお、堀 1・2・3 は調査時溝 1・2・3 と呼称したが、それぞれ堀 1・2・

3 に改め、溝 4 も堀 4 とし、溝 5 はそのまま呼称する。

堀 1(溝 1) は第 7 地点から本地点、第 29 地点へと連続する南北方向、やや東寄りの堀跡である。断面 V 字形に開く薬研状を呈する。

堀 2～堀 4・溝 5 とともに第 7 地点から本地点、第 29 地点へと連続する南北方向の堀跡である。堀 3 は堀 4 により壊され、堀 2 は堀 4 の構築時に埋められ、さらに堀 2 と堀 4 の埋土は最上層部が硬化し、道路状になっている。また、堀 2 と堀 3 の底部はローム面の酸化し、水成堆積が認められる。

なお、第 7 地点の調査時には堀 1→堀 2→堀 3 の順に新しいことが確認できているので、今回さらに一番新しい堀 4 が東から西の順に構築されている事が確認できた。詳細は第 70 表参照。

【出土遺物】(第 90 図 1・2)

堀跡からは縄文土器多数を検出したが、当該時期の遺構は検出しなかった。斜面上等からの流れ込みと思われる。石器のみ図示した。

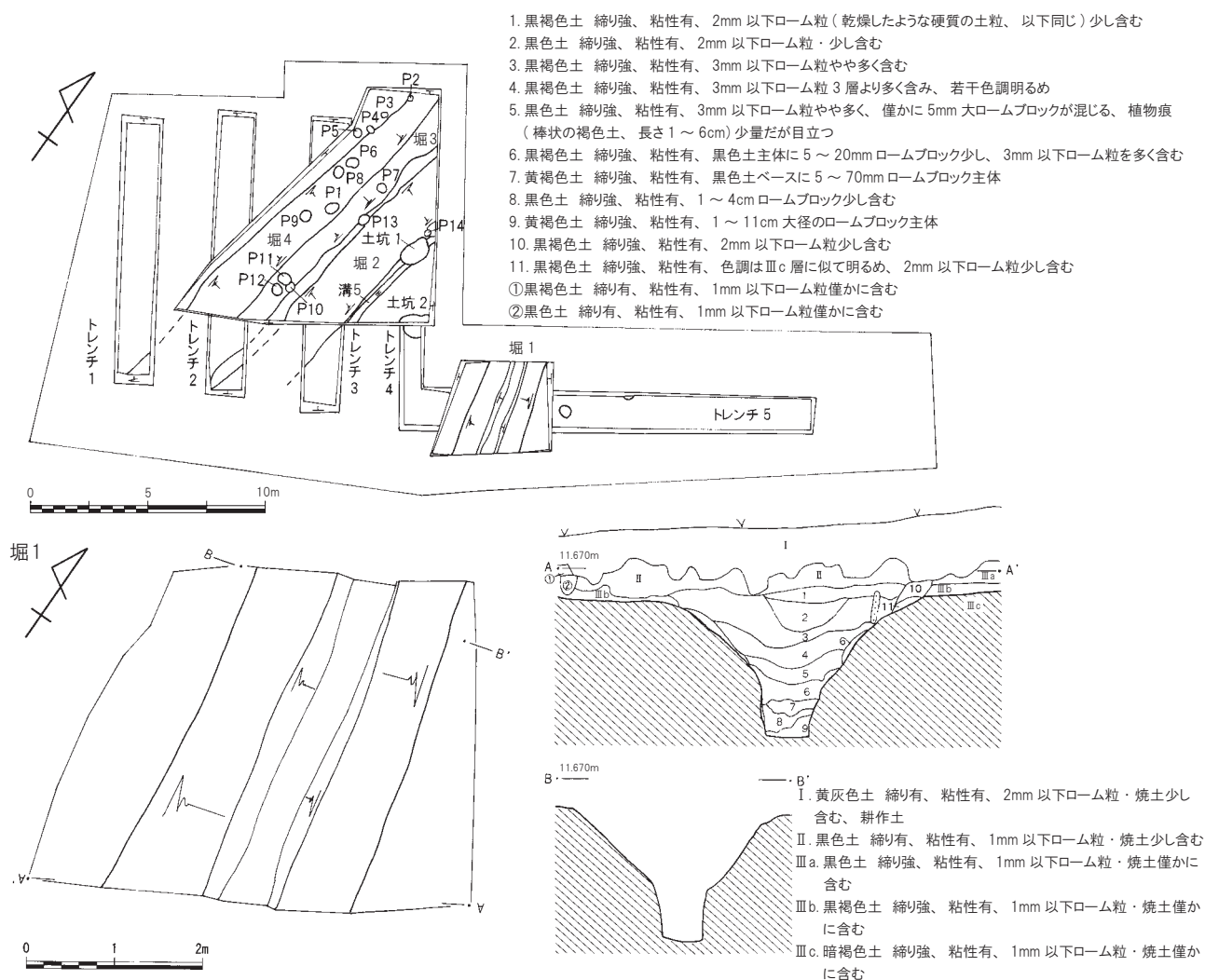
1 は黒色片の石皿か、重さ 757.45 g。2 は黒曜石の石鏃で重さ 1.30 g である。

第 69 表 浄禅寺跡遺跡第 36 地点土坑・ピット一覧表
(単位 cm)

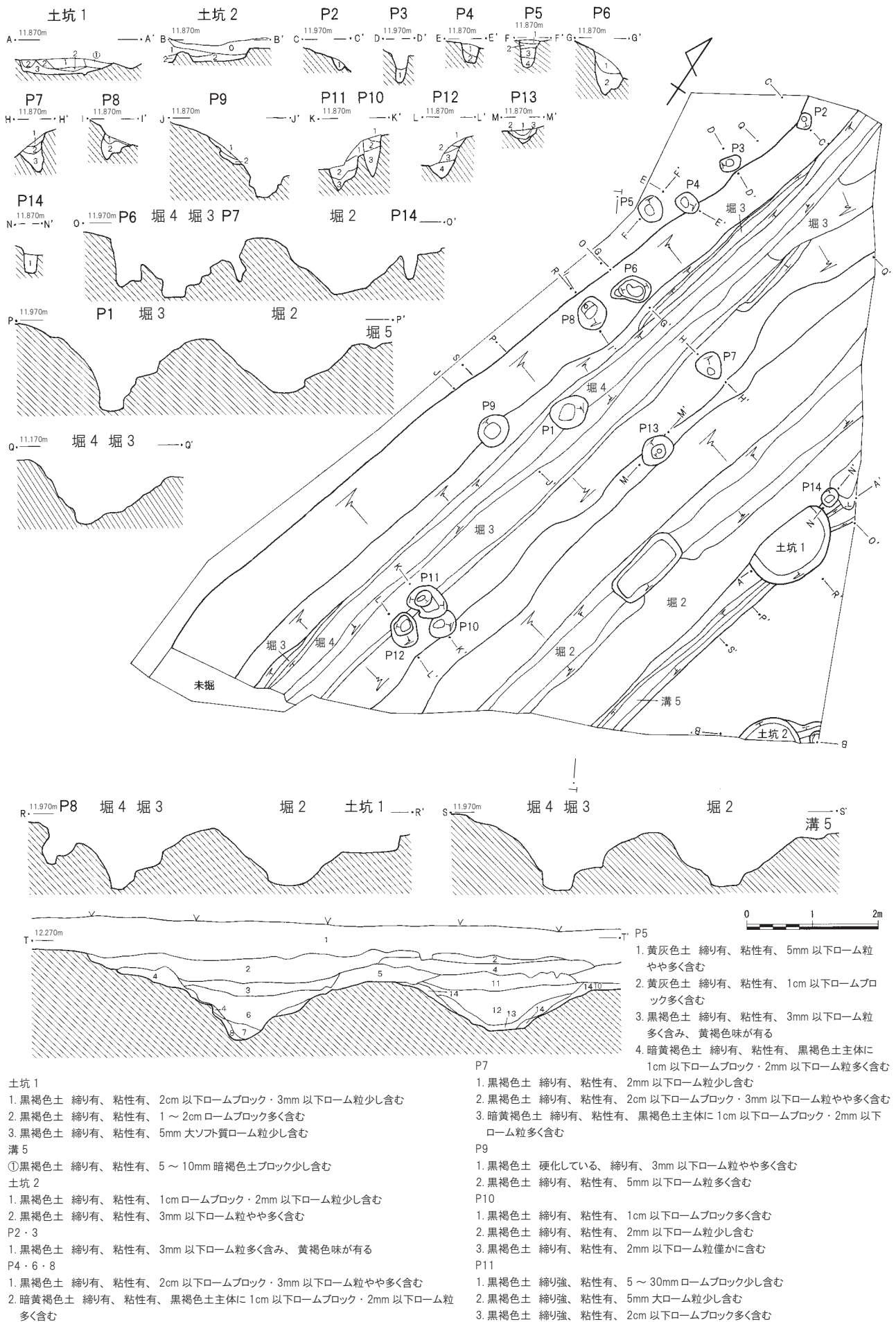
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1	不明	139×(81)	112×(68)	28.4	
土坑2	不明	(120)×34	75×26	21.0	
P1	楕円形	60×45	26×21	55.7	
P2	方形	24×19	8×7	22.6	
P3	方形	30×22	11×10	50.1	
P4	方形	34×27	13×11	33.8	
P5	方形	40×34	16×11	46.2	
P6	ひょうたん形	61×40	24×14	75.2	
P7	三角	40×37	12×10	63.7	
P8	円形	46×45	5×4	60.6	
P9	円形	50×44	25×22	25.7	
P10	円形	44×35	16×11	35.5	
P11	方形	55×46	15×6	66.8	
P12	方形	52×40	15×14	83.5	
P13	楕円形	51×38	6×5	35.3	
P14	方形	29×22	12×9	43.6	

第 70 表 浄禅寺跡遺跡第 36 地点堀・溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
堀1	V字(薬研堀)	228～265	39～53	153.0	
堀2	V字(薬研堀)	56～68	27～48	26.4	
堀3	V字(薬研堀)	195～292	74～79	101.3	
堀4	V字(薬研堀)	37～68	17～29	126.4	
溝5	皿状	34～49	5～17	9.7	



第88図 浄禅寺跡遺跡第36地点遺構配置図(1/300)、堀1(1/80)



第 89 図 浄禅寺跡遺跡第 36 地点土坑・ピット・堀 2 ~ 4・溝 5(1/80)

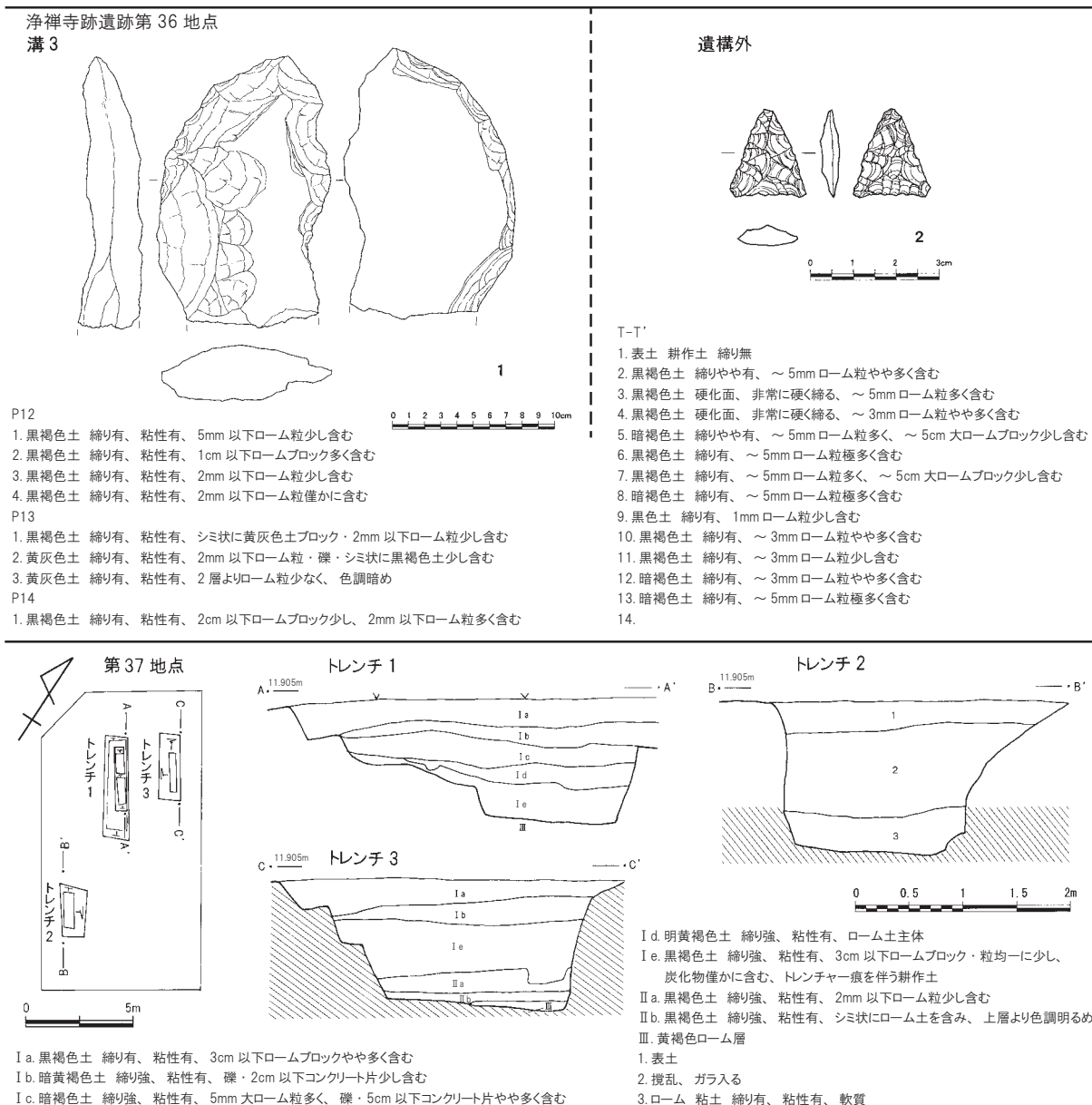
IV 浄禅寺跡遺跡第37地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年10月24日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年11月21日、幅約1mのトレ

ンチ3本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、1m近い盛土と整地作業が行われており、遺構・遺物が確認できなかったため、慎重工事の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約120cmである。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。



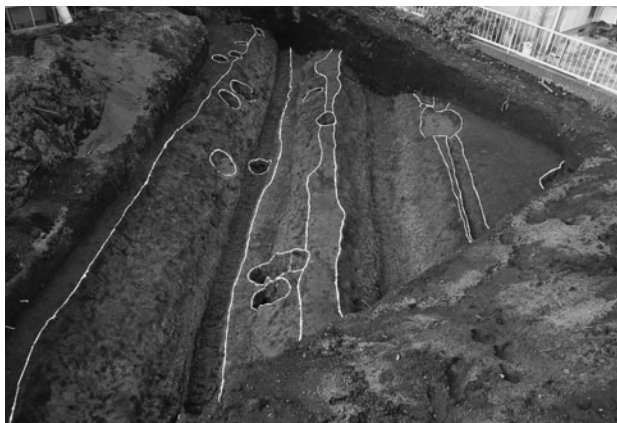
第90図 浄禅寺跡遺跡第36地点出土遺物(1/4・2/3)、第37地点調査区域図(1/300)、土層(1/60)



浄禅寺跡遺跡第 35 地点トレンチ 1 全景



浄禅寺跡遺跡第 35 地点調査風景



浄禅寺跡遺跡第 36 地点堀 2 ～ 4



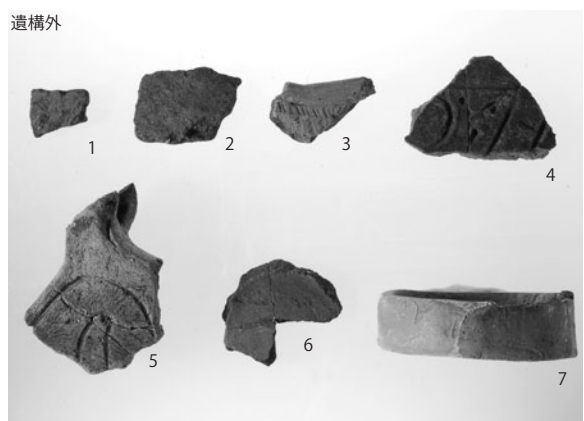
浄禅寺跡遺跡第 36 地点堀 1



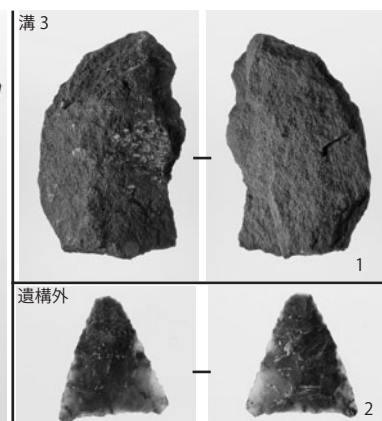
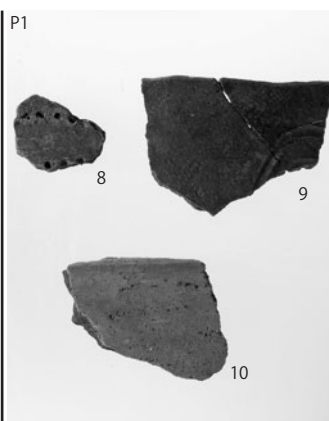
浄禅寺跡遺跡第 36 地点堀 1 土層



浄禅寺跡遺跡第 36 地点土坑 1 完掘



浄禅寺跡遺跡第 35 地点出土遺物



浄禅寺跡遺跡第 36 地点出土遺物



浄禅寺跡遺跡第 37 地点調査風景